

【学校教育目標】 自分とみんなのために 心を尽くし、学びを深め、ともに動く 大小っ子の育成  
【目指す児童像】 気づく子 学ぶ子 元気な子

# 玖城のほとり



大村市立大村小学校

学校だより

第6号

令和7年6月6日発行

文責：校長 堺 邦寿

## ★ 水泳学習が始まります！ ★

各学年からのお知らせのとおり、来週から水泳学習が始まります。今週から水泳用具を持って登校する子どもたちも多くおり、早くからご準備いただいていることに感謝申し上げます。ただ心配なのは天気。予報では、来週以降、雨やくもりのマークが続いています。おそらく間もなく梅雨入りと思われますが、どうか子どもたちが楽しみにしている水泳学習ができる天気になってほしいと願っています。水泳学習の実施に当たっては、天候、気温、水温、雷予報等々を踏まえ、子どもたちの安全を第一に考え実施しますので、予定していても実施できない場合があります。また、水泳実施の可否については、水泳カードの提出により、保護者の承諾をいただいています。カードの提出がない場合は、泳ぐことができません。これは大切なお子様をお預かりするからこそその対応ですので、どうぞご理解のほどよろしくお願いします。



この水泳学習に向けて、6年生のみんなが先週の金曜日にプール清掃を行いました。

みんなで協力して1年間の汚れをきれいに洗い流してくれました。自分たちも含めた大小っ子のために心と力を尽くし、ともに働きました。「自分とみんなのために」一生懸命働く姿が輝いていました。

**6年生のみなさん、いつもありがとう！**

## ★ 大きく 大きく 成長しています！ ～1・2年生 生活科～ ★

1年生は、4月の授業参観の時に、おうちの方と一緒にアサガオの種まきをしました。そのアサガオが2か月を経て大きく成長しています。1年生の子どもたちが、中庭のアサガオに、毎朝欠かさず水やりを続けたおかげです。途中で間引いた苗も学年園に植え育てています。アサガオの命を大切に育てています。

2年生は、5月にミニトマトの苗を植えました。その苗がぐんと伸び、実がなるのを楽しみに毎日水やりをしています。学年園では、学級ごとに、キュウリ、オクラ、枝豆、ピーマン、トマトを育てています。こちらも各学級のグループで協力して育てています。

アサガオの観察をした子どもたちは、「葉っぱがだんだん大きくなったよ。」「葉っぱをさわったらざらざらしていたよ。」など、キュウリを観察した子どもたちは、「キュウリにアサガオと同じようなつるが出てきたよ。」など、植物固有の特徴や成長の様子を観察する中で、植物が成長していることや生命をもっていることに気付いています。

毎日の栽培活動を通して、植物への親しみをもって、大切にしようとする心が育っています。



※裏面に、木村指導教諭作成の「特別支援教育だより」No.3を載せております。どうぞお読みください。

### ～みんなちがって みんないい (その3) ～

今回も昨年と同じ「脳の発達」についてお話しします。人間の脳は、黙っていても発達するものではありません。脳の発達には段階があり、望ましい発達を促すために必要な環境・要素を与えることが大切です。文教大学教授で小児科医の成田奈緒子先生は、「脳の発達の3段階」について「良い発達は順番とバランスが大切だ」と言われています。その3段階について説明します。

第1段階は「からだの脳」の段階です。これは「食事」「呼吸」「睡眠」「姿勢の保持」「運動機能」など、生きるために必要な機能を担う脳（脳幹・大脳辺縁系）の働きを確立する段階で、0歳～5歳くらいの間ではほぼ完成されます。第2段階は「学習脳（大脳皮質・小脳）」の段階で、「言語活動」「微細運動」「学習能力」「スポーツ能力」などの知能を発達させます。これは1歳～18歳くらいで成長が見られますが、成長のピークは6歳～14歳頃で、思春期が終わるくらいまでと考えると分かりやすいです。第3段階が「こころの脳（前頭葉）」の段階で、「思いやりの心・想像力の育成」「社会性の伸長」など人間らしい思考や感情を確立する段階です。これは10歳～18歳くらいに成長し、ピークは14歳～18歳頃だと言われています。つまり思春期から青年期に人格の最終形成が行われることになります。脳はこの順番に成長していきますが、乳幼児期から学童期（0歳～14歳）くらいまでの脳の育ちが特に重要です。第1段階の「からだの脳」は、脳の発達全ての土台になります。「早寝早起き」「日中は体を動かし、様々な体験や感覚を味わう」など、「当たり前」と思われることをしっかり保障することが重要です。しかし最近では、この部分が十分に育たないまま、第2段階が重視されていることが多くなりました。早期から塾や習い事に通わせるなど「学習脳」を育てようとするが増えてしまい、小学校高学年以降での学習の伸び悩みや社会性・規律規範順守の道德性の希薄さ、忍耐強さなどに問題が起りやすくなっています。土台となる脳を育てるためには「様々な体験」や「感覚入力」が重要です。この感覚は運動や体験から得られます。「視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚」などの5覚と、筋肉や関節で感じる「固有覚」、内耳にある三半規管で感じる「前庭覚」からの感覚で育

っていきます。「きれいだね」「冷たいね」などの言葉と体験も重要なのです。乳幼児～学童期が最も脳が育つため、日常生活のすべてが大切な経験になります。ところが、この育ちには個人差があり、日常の経験で十分に育つ場合と、意図的に感覚入力を増やしてあげなければいけない場合があります。子ども時代の貴重な体験が、その後の学習能力や社会性に繋がるのです。成田先生は、これらの感覚は脳の中で情報を伝達するシナプスの働きにも良い影響を与えていると言っています。ところが前述したように、現代（およそ10～20年ほど前くらいから）は、塾や習い事だけでなく早い時期からゲームやメディアを与えることが多いため、全体的な脳の育ちのバランスを崩している子が少なくありません。また、これら生活習慣の変化により、入眠時間の遅れや睡眠時間の不足も大きな問題です。青山・表参道睡眠ストレスクリニック院長の中村真樹先生は、「寝不足の子どもは前頭葉の働きが低下する」と注意喚起されています。前頭葉は「人間が人間らしく在る」ための重要な働きをしている大切な脳の部位です。前頭葉は思考や感情、コミュニケーションなど理性を司る働きがあるため、前頭葉の働きが弱いままだと、「集中力・意欲の低下・認知能力の遅れ・イライラ・他に対しての攻撃性」が現れます。このような状況が続くと「学習脳」と「こころの脳」の育ちにも影響が出てしまいます。ゲームやネット等の依存治療専門の外来を初めて開設した久里浜医療センターの樋口進名誉院長によると、ゲームやメディアに接する時間や頻度が多くなることで、脳の前頭前野が十分に発達しないため、行動を抑える「理性の脳」の働きが劣ってしまい、依存症に陥りやすいとのこと。現在、当センターに通う患者の70%が未成年、小学生も入院治療を行っている状況で、低年齢化が深刻な問題となっているそうです。本校の子ども達の多くは「徒歩通学」していますが、「歩くこと」は脳の成長にとって重要な運動です。他にも様々なスポーツに取り組んでいる児童もいます。運動や外での遊びは筋力や持久力が伸びるとともに、脳への大きな刺激が働き、健全な脳の成長を促します。「脳の発達」は環境要因で変わります。メディアに触れている時間の調節や休日の過ごし方など少しだけお子さんの生活を見つめ直してみませんか？